

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	観光型ホテル（経営者）	・道外客、海外客とも順調な動きをみせている。企業、ツアーなどの団体客も引き合いが活発化してきている。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・今年の秋冬商品のトレンドカラーは、一般に人気の出そうなベーシックなものであることから、気温さえ下がれば防寒商品の動きが活発になり、単価が上昇することで良い状況になる。	
		商店街（代表者）	・人の流れは天候によって左右されるが、フリー客が多く入っているため、今後も客の入込は良くなる。	
		一般小売店〔土産〕（店員）	・景気回復に伴い、家族単位で移動する機会が増えてくる。また企業の観楓会や社員旅行、出張、企業研修等、色々な形で人が動き出してくる。人が動くことで、物も動くようになり、販売量の増加が見込める。悪くなる要因は見当たらず、先行きについては明るい見通しを持っている。	
		コンビニ（エリア担当）	・地方スーパーやコンビニなどの競合店の閉鎖が相次いで起きている。一時的なものに過ぎないが、売上は大きく増加しており、年末へ向けてのプラス要素としては大きい。	
		乗用車販売店（従業員）	・天候の回復で農作物の収穫に期待感があるため、今よりも多少は持ち直してくる。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・政局や海外の動向に影響される面もあるが、国内客、海外客とも、秋冬にかけての予約状況が順調である。	
		旅行代理店（従業員）	・9月の旅行需要はこの1か月で前年並みに戻りつつあり、10月の出足も好調である。客の来店動向は波状のだが、関西から沖縄にかけての遠出が期待できる。	
		旅行代理店（従業員）	・客の動きが出てきている状況であり、販売額に連動してくることが期待される。	
		旅行代理店（従業員）	・春先よりも来客数が伸びてきている。	
		設計事務所（所長）	・マスコミの取り上げ方などもあり、住宅取得熱は徐々に上がってきている。現在の動きが悪いのは、経営者たちの目が設備投資に向いているという供給側の問題である。	
		変わらない	商店街（代表者）	・個人消費は決して好調とはいえず、今後も一進一退の状況が続く。
			一般小売店〔酒〕（経営者）	・8月の売上については、概ね堅調に推移しているが、好天続きによるところが大きく、秋冬に向けて、現状が維持されていくかは不安である。ただ、売上はある程度、伸び基調にあるので、その傾向は変わらない。
			百貨店（売場主任）	・今後3か月の長期予報で、暖かい日が続くという点が気になる。特に秋物のジャケット、11月からのコート等の動きが鈍くなるのではないかと懸念される。ウォームピスの効果でベストが動くと思われるが、単価の低下につながる懸念される。
百貨店（売場主任）	・当面の間、今の好調さが継続すると見込まれるが、北海道は2～3か月先には雪が降る可能性があり、ここ数か月の原油高が消費に影響を与えることが懸念される。			
百貨店（販売促進担当）	・ファッション関連の支出に対して、顧客の財布のひもが緩んでいない。今月の動向をみても、暑くても着られる晩夏物、初秋物の定価品が今一つ伸びてこない。			
スーパー（企画担当）	・相場高、燃料高などにより、化成品材料に続いて生鮮食品の価格上昇も進行しつつあるが、基本食材であるだけに、価格感応度もあまり高くなく、実際の消費動向にどのような影響が出てくるのか、現状では判断しきれない。			
コンビニ（エリア担当）	・天候の回復とともに来客数や売上が増加している。発泡酒など低価格のビールよりも、いわゆる普通のビールの販売が好調であり、低価格一辺倒とも言えなくなった。ただ、基調は安い商品であり、先行きについては少しでも天候不順等があれば崩れる気配を感じる。			
高級レストラン（スタッフ）	・今後の予約は前年並みである。現在の北海道観光は旭山動物園と知床が人気であるが、旭山動物園が10月に10日間ほど休業するため、観光客の動きはつかみにくい。道内観光客は前年比で10%ほど減少したままであり、地方では景気回復が遅れていると感じる。先日、好評の道内1泊ツアーに参加したが、参加者は土産物店などで好みの商品を次々に購入しており、魅力ある商品に対しては財布のひもも緩むようである。			

	観光型ホテル（経営者）	・今年はい知万博の影響がなく、この3か月の推移をみると、前々年並みに推移している。このトレンドから、今後についても前々年と変わらない水準でいくと見込まれる。	
	旅行代理店（従業員）	・秋から冬にかけての旅行需要は増加しつつあるが、全体としては横ばいで推移する。	
	タクシー運転手	・釧路では老舗デパートが8月で撤退し、その周辺の商店も店を閉めるような状態であることから、今後の景気回復は見込めない状況にある。	
	美容室（経営者）	・月ごとの増減が顕著に発生する状況が続いているが、平均すると当分は変わらないまま推移する。	
	設計事務所（職員）	・苫東での機械部品工場、大手乳業メーカーのチーズ工場等、建設業界の景気浮揚を期待させるプロジェクトが着工したが、今のところこれに継続するプロジェクトがあまり見当たらない。	
	住宅販売会社（従業員）	・雇用関係が改善、若しくは安定するまでは、客の動きが変わってこない状況にあり、企業としての販売量も苦しい状況が続く。	
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・今後、インフレトレンドが予測されるが、現状下では可処分所得を圧縮するにとどまり、所得に跳ね返るのは早くて来春以降の公算が大きく、しばらくは景気上昇の足を引っ張ると見込まれる。	
	スーパー（店長）	・昨年に比べて、気温の高い日が続いたせいか、今月はビールやドリンク等の季節商材が好調であったが、競合店の影響による来客数や販売量、売上の減少といった流れは今後も変わらない。	
	コンビニ（エリア担当）	・全国的な景気回復の波が北海道に来るまでにはタイムラグがある。やはりガソリン高騰の影響が大きく、市町村合併などに伴う公務員の所得減少もあり、年末に向けて単価低下の対策が必要になってくる。	
	コンビニ（エリア担当）	・原油高騰により輸送費が増加し、一次産業のコスト高が見込まれる。またロシアとの関係悪化に伴い、漁獲高に影響が生じることにより、景気は悪化する。	
	衣料品専門店（店長）	・当店は中年女性客が多いが、将来の年金問題、医療費増大、石油高騰などの問題から暖房費について心配していて、大きな買物を控えている。	
	家電量販店（地区統括部長）	・石油価格高騰により、灯油などを用いる暖房製品の需要が悪くなる懸念される。	
	タクシー運転手	・規制緩和以降、札幌では新しいタクシー会社が増えている。また既存のタクシー会社も車両台数が増えている。今月も新しいタクシー会社ができおり、利用客が減少している流れの中で、ますます競争が激しくなり、タクシーの売上は減っていく。	
	その他サービスの動向を把握できる者	・北海道観光においては、知床や旭山動物園の二強の影響もあって、離島観光の回復にはしばらく時間が掛かりそうである。	
悪くなる	スナック（経営者）	・今後、旭川では市長選挙があるが、候補が決定したので、飲食店で会話することも少なくなる。また土建関係の企業も段々と厳しくなってきたり、飲食店の売上が増えることは望めない。	
企業動向関連	良くなる		
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員）	・ゼロ金利の解除に伴う預貯金金利率の上昇があり、消費者の購買動向に好材料となる。
		輸送業（支店長）	・鉄鋼については系列化の動きが更に加速され、その担当者への貨物の集中が想定される。
		通信業（営業担当）	・先行きに関しては、ここしばらく横ばいの印象を受けていたが、当社の業績が比較的好調であり、また周囲の他社についても予想よりも受注が堅調であるという話が出ている。
	変わらない	家具製造業（経営者）	・耐震強度偽装問題によるマンション市場の低迷をはじめとして、市場の活性化を阻害する要因が多い。
		建設業（経営者）	・受注がほぼ一段落しており、手持ち工事の施工が概ね現状のまま推移する。
輸送業（営業担当）		・今月に入り天候も回復しており、農産物の生育状況も昨年並みに近づいている。平年並みの輸送量が確保できそうである。また道東地区の牧草の収穫量は良いが、成分が悪いため、輸入品の増加を期待している。	

	金融業（企画担当）	・観光関連は知床や旭山動物園の効果で引き続き好調が見込まれる。しかし、個人消費は所得の伸び悩みに加え、ガソリン価格の上昇や需要期に入る灯油価格の値上がりも見込まれ、力強さに欠けて推移する。総じて景気は横ばい圏内にとどまる。	
	司法書士	・建物の建築戸数が上向いているように見受けられるが一時的な傾向であり、土地の取引においても一部の地域を除いて低調に推移しているため、今後も期待できない。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・コスト削減も限界にきている。先行きも不透明で短期間での回復は考えにくい。	
	やや悪くなる	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・下期に入り、本州からの加工委託が大きく増加する見通しは薄いことから、現状と比べると、道内の加工量が減少した分だけ悪く推移する。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる		
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人、求職者数とも大きな変動がみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・農産物の二次加工等で人手不足感があるものの、一時的なものか継続的なものか現時点での判断はとて微妙である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人の好調さに大きな変化は感じられない。年内は極端な上下変動はないと感じている。
		職業安定所（職員）	・依然としてパート、派遣、業務請負の求人が多く、求職者のほとんどが求めている常用就職の雇用環境は厳しい状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の前年比の減少幅が小さくなってきており、今後についても大きな変化はないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数が3か月連続して減少していたが、今月は増加に反転しており、今後への影響が懸念される。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・6月ごろまで続いていた求人件数の伸びが落ちてきており、前年を下回る頻度が高くなってきている。
	悪くなる	-	-